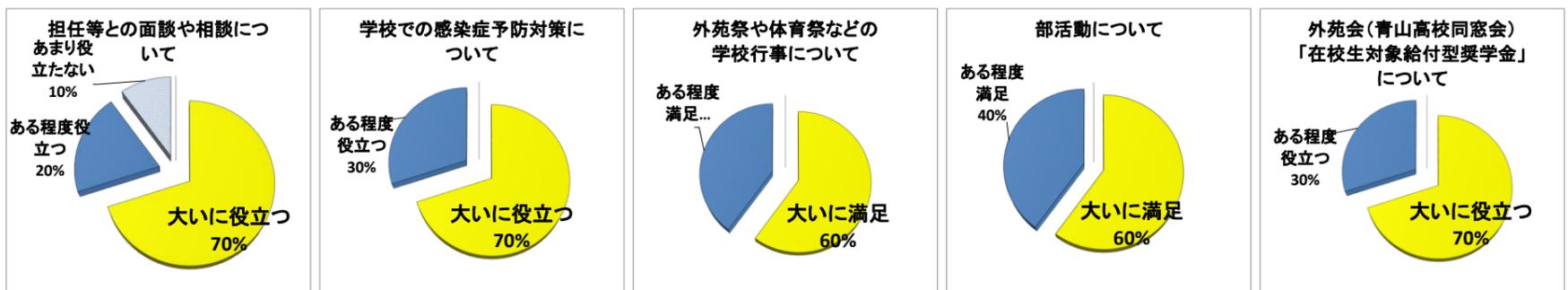
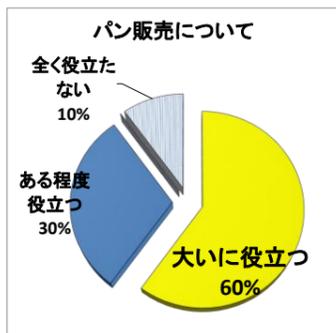


全体的傾向を知るにはよいが、進路は生徒によりけりなので長時間にならないことを望む。ただ、資料だけの提供や配布より、耳からの情報は記憶に残る利点もあると思う。



担任の先生の関わり、知識、生徒との信頼関係など個人差が大きいと思われるので、研修やワークショップなどで全体の平均値を上げてもらいたい。



毎日お弁当持参で、菓子パンを食べない生徒もいると聞いている。

自由記述

難しい時局が続くがコロナ禍での不自由さの中でオンライン活用が飛躍的に進んだ。大学に進学しても、社会に出ても、このスキルは必須のものとなっている。先生方にはご負担も大きいものと思うが、さらなるオンラインの活用と、そこに潜むリスク、その対処方法の習得が目下の課題ではないかと思う。

二次元のオンラインは何かと効率的だが、やはり3次元あるいは時間経過を含めた4次元の人と人の関わりがあつてのことだと思う。生徒同士、生徒と先生、先生同士の生のコミュニケーションが何よりの原動力になると考える。

- (1)在校生一人ひとりが幅広い教養を修得し、自らの希望する進路を実現できるよう、在校生本位の学校運営をより一層推進する。
- (2)学校運営の基本方針を教職員が確実に共有しつつ、目標の実現に向けて教職員の知見も活用した複合的な手法を活用する。
- (3)適時適切な情報の発信を可能な範囲で継続して実施する。
- (4)在校生はもとより、教職員の心身の健康に留意する。

ある事象に対して、対策するにはどのようなことがなぜ必要か、またその途中経過などを早期に発信すること。(青高ではこのご時世の中でも様々な対策や発信が充分に行われていると思う。)

文化講演の講師、内容がとても充実してきており、生徒たちに将来について考えてもらえる、素晴らしい機会を青山高校は提供してくれていると感じる。できるだけ低学年のうちにくさんの講演を実施して、将来を考え、進路を選ぶ参考にしてもらえたらと思う。

コロナの影響に左右されず、学習や部活動、学校行事など、中止ではなく、形を変えてでも実践する事を願う。生徒達を一番に考え、無観客にするなど、保護者の方はその次で良いと思う。